

八潮公マネ委収 第1号
平成29年7月24日

八潮市長 大山 忍 様

八潮市公共施設マネジメント推進委員会
委員長 松本 暢子



八潮市公共施設マネジメントアクションプランについて（答申）

平成29年5月22日付け八潮ア発第22号で諮問のあった「八潮市公共施設マネジメントアクションプラン」について、当委員会において慎重に審議した結果、次のとおり答申します。

答 申

アセットマネジメントの取組は、施設をなくすことや市民利用者がそれを我慢することではありません。使われない施設の管理負担が大きく、市民利用者にとって、真に必要な施設やサービスが提供できない状態から抜け出し、そして何より、市民生活を支えるために、どのような施設が必要かを厳選することで、市民の生活がより充実したものになることと考えます。

八潮市公共施設マネジメントアクションプランでは、施設を長く使い続けるにはどうすれば良いのか。老朽化する建物や設備の改修・更新をどのように取組むのか。市の財政で賄えるのか。今後10年間で、どの施設がどのようになるのか。まずは直近で最優先に取組む事業は何かを示されています。

当委員会において慎重に審議した結果、本プランの内容につきましては、妥当であると考えます。

なお、今後の実行にあたっては、前文の趣旨を踏まえ、以下の点に留意され取組まれることを申し添えます。

- 1 公共施設の再編により、市民利用者に不便をかけないように、施設と利用の形態のミスマッチを整理するとともに、真に必要なものを優先して暮らしやすさの視点から取組を推進されたい。

- 2 公共施設の再編にあたっては、地区の視点、地域の視点、全市の視点を踏まえて考えるとともに、こども、大人、シニア、来街者など、様々な立場の視点から検討をされたい。併せて、過去、現在、将来の状況、時間を行き来して考えていくことに留意されたい。
- 3 現在の施設評価として、なぜ使いにくいのか。なぜ大切なのか。市民の暮らしからのニーズとして、どのような場所やサービスが必要なのか。市民とともにつくる視点として、一緒にできることは何かについて、十分に検討をされたい。
- 4 利用率が低いということだけで、不要な施設であると評価しないように、建物が使いにくい、場所が悪い、或いは、代替りの場所があるのかもしれないなど、利用率が低い要因を検証・分析し、利用率を向上させるには何が必要か、どのようにすれば活用してもらえるのかについて、十分に検討をされたい。
- 5 施設の廃止により、一部、市民利用者に不便を強いる場面も想定されることを踏まえ、市の強みであるコンパクトさを活かした、移動サービスとの組合せによる施設配置を考えていくなど、施設の廃止に伴う代替案や見直し案などが妥当なものになっているのか、十分に検討をされたい。
- 6 市行政として、費用対効果だけの成果を求めるのではなく、市民にとっての暮らしやすさの視点から評価を行い、取組の相乗効果として、市民や民間事業者等との連携・協力体制を含めた総合的なアセットマネジメントに取り組まされたい。それによって、市民の暮らしや公共サービスの充実に対する市民の思いに応えられるよう、取組を推進されることを期待します。